



優秀賞

岡山県 株式会社 三永  
「社会貢献福祉基金「サン基金」による  
助成金授与」事業



株式会社 三永 代表取締役 社長  
吉田清志さん

心優しい地域社会の実現をめざすボランテ

ボランティアや福祉活動を資金面で支える

岡山県倉敷市を拠点に、「ジャンボグループ」として岡山県(10店舗)と山口県(1店舗)でパチンコホールを展開する「(株)三永」では、お客様に健全な憩いの場とあたたかいサービスを提供することで、潤いのある豊かな地域社会の実現に貢献することをモットーとしている。

そうした精神が企業風土となり、それによって人間性豊かな集団として社会に貢献していくことを目標に、三永では2000年(平成12年)という区切りの年に「サンエイグループ社会貢献福祉基金(サン基金)」を設立した。その事業内容としては、以下の2点を中心に据えている。

- ①地域社会でさまざまなボランティア活動や地域福祉活動等に熱意を持って積極的に取り組み、経済的援助を必要とする個人、諸団体に対して助成金を授与する。
- ②その他、福祉、環境の充実等、本基金の目的達成に必要な事業を行う。

以上の趣旨に基づき、サン基金では発足以来10年間で、総額5,914万円、延べ328団体に助成金を授与した。授与額、授与団体数とも年々増えてきており、昨年度は授与額1,048万円、授与団体数が53団体になった。

助成金交付に当たっては、毎年1月に助成を希望するボランティア関係団体や福祉関係団体から希望を募り、書類審査と面接を行い、4月下旬に1件あたり1万円から50万円までの範囲で助成先・金額を決め、助成している。サン基金の事業が県内の多くの社会福祉関係、ボランティア関係団体などに浸透するにつれ、年々、助成を希望する件数が増え、昨年度は約100団体から助成依頼があったという。そのことから、サン基金は県内の各種団体の支援基金として期待されているのがわかる。

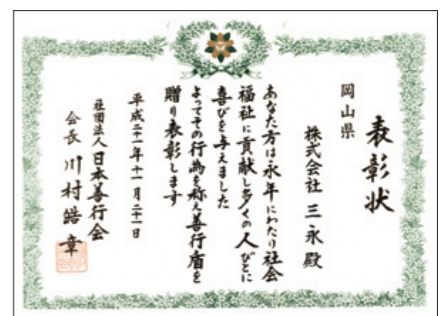
県知事や社団法人から善行賞を受賞

さらに三永では、社内の青年部のメンバーを中心に、

ボランティアや福祉活動を資金面で支える



山陽新聞及び岡山日日新聞にて「サン基金」の助成活動について報道された



社団法人 日本善行会から贈られた表彰状



プルタブを回収し、車いすと交換する活動が山陽新聞で報道された



「サン基金」の申込案内書。約100団体から助成依頼があった

アルミ缶飲料のプルタブを回収し、車いすと交換し、福祉施設などに寄贈している。この活動は2006年(平成18年)から全11店舗で始めた活動で、店内に回収箱を置いたり、関連会社に協力を募るなどして、約160万個(800kg相当)のプルタブを集めた。これを車いす1台と交換し、さらにサン基金で購入した2台と合わせ、計3台の車いすを岡山市内の社会福祉法人が運営する特別養護老人ホームに贈った。

こうした三永の社会貢献活動は、そのつど「山陽新聞」などの地元紙で紹介され、多くの県民に広く認知されつつある。そうした積み重ねもあり、これまでの一連の

活動に対し、昨年4月には岡山県知事から県知事善行賞が贈られた。さらに、昨年11月には社団法人日本善行会からも表彰された。

一つのホールグループが「基金」を設立し、決して少なくはない金額を助成金という形で毎年、継続的に授与しているケースはそれほど多くない。景気の動向も如実に影響してくる中で、このような継続的活動を行うことで、地域から期待される存在、なくてはならない存在になることは、業界全体が目指すべき方向性とも合致している。その意味からも、三永の社会貢献活動は業界の範といってもいいだろう。